

ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る児童の育成
～地域の先輩 高齢者とのつながりを通して～

深谷市立川本南小学校
下山 季子

1 はじめに

(1) 地域・学校・報告団体等の概要

ア 深谷市は埼玉県北西部に位置し、熊谷市、本庄市と接する。北部の利根川水系の低地でネギ作り、南部は荒川が扇状地を形成する畑での野菜や花の栽培が盛んである。次期1万円札肖像になる渋沢栄一誕生の地であり、深谷市の道徳教材にも功績が紹介されている。

イ 本校は、市内で荒川の南にある唯一の学校である。学区は、荒川の南の平地と丘陵地に広がり、田や畑、森林に囲まれた静かな落ち着いた環境にある。

今年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場する、坂東武者の鑑とされた畠山重忠公を生み出したゆかりの地でもあり、本校の校歌には、畠山重忠公が歌われている。

校地に隣接して特別養護老人ホームやデイサービスセンター、グループホーム、市立保育園があり交流を図っている。

(2) 研究テーマとの関わり

本校は、令和2年度より、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る児童の育成」をテーマに、ふるさと教育を推進してきた。また、令和3・4年度には、深谷市教育委員会の委嘱を受け、「ふるさと教育」を研究している。ふるさと教育を推進していく中で、ふるさとの先輩である高齢者とのつながりを図った教育活動に取り組んできている。

2 具体的な取組

(1) ふるさとの先輩から学ぶ教育活動

・1年 生活科【昔あそび体験】

地域の「福寿会」の高齢者から、ビー玉やけん玉、羽子板などの昔の遊びを教えてもらい、その後、お礼の手紙を書く。地域の高齢者との触れ合いを通して、高齢者とのつながりを図っている。



・2年 生活科【焼き芋体験】

地域の高齢者から、サツマイモの苗植えを覚えてもらう。秋には、収穫したサツマイモをわんぱくの森の落ち葉を活用し焼き芋体験をして、教えていただいた高齢者と一緒に食べる活動を行っている。



・3年 総合【ねぎ栽培・ねぎ焼き体験】

深谷市の特産品「深谷ねぎ」を学校の「重忠ファーム」で栽培する。地域の高齢者の方にねぎの植え方を教わり、そのお礼としてねぎを収穫した後、ねぎ焼き体験をして一緒に食べて感謝の気持ちを伝える。

・4年 総合【重忠にんにく収穫体験】

学校の近くの農家が栽培している「重忠にんにく」を3年生が11月に植え、4年生に進級した5月に、収穫体験を行う。地域の高齢者の方に重忠にんにくの収穫の仕方を教わり、収穫のお手伝いをする事で、感謝の気持ちを表す。

・全校 運動会【重忠節】

地域の重忠節同好会の方を講師として、重忠節を教わり、運動会当日は、全校ダンスとして、講師の方と一緒に重忠節を踊る。また、児童は、夏休みの課題として、重忠節の暗唱に取り組む。

(2) ふるさとの先輩と創る教育活動

・5年 総合【田んぼアートに挑戦】

本校の「田んぼアート」は、地域の学校応援団の方々の協力により、10年以上行っている取組である。この活動も、地域の高齢者の方とともに活動し、粃ふり、田植え、稲刈りを行っていく。そのお礼として、作ったもち米を使って、餅つきを行い感謝の会を行う。

ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る児童の育成
5年生 田植え②
【6月】 総合 田んぼアートに挑戦⑤



(3) ふるさとの先輩とつながる教育活動

・清風苑との交流（コロナ前）・清風苑との交流（コロナ禍）・優 tube

隣接する清風苑とは、環境・福祉委員会を中心に、毎年、タオルにメッセージを添えて清風苑に送る形で実施してきた。しかし、コロナ禍で清風苑との交流ができていない状況である。今年度から、「優 tube」として、全校で取り組んでいる暗唱を動画で撮影し、毎月、清風苑の高齢者の方々に送る活動を始めた。

地域の高齢者に 暗唱を届ける
優 tube

目的
コロナ禍で、隣接する清風苑のお年寄りとの交流ができなくなって丸2年。清風苑のお年寄りに元気になったもらうために、川本南小児童の元気な暗唱の動画を届ける。

方法
毎月の暗唱を担当クラスが月末に暗唱する。その様子をiPadで撮影し、元気と思いやりを送る「優tube」として、清風苑のお年寄りに見てもらう。

内容	月	現年	月	現年	月	現年
①はじめのあいさつ	4月	3年	9月	1年	1月	5年
②語の暗唱	5月	4年	10月	2年	2月	6年
③おわると郷土かるたの暗唱	6月	5年	11月	3年	3月	1年
④おわりのあいさつ	7月	6年	12月	4年	12月	2年

撮影・編集 SOME家

3 成果と課題

(1) 成果

学校の教育活動の中に、地域の先輩（高齢者）と関わる活動を計画的に取り入れ、それぞれの活動を通して、地域の先輩（高齢者）と触れ合うことができた。その触れ合いを通して、高齢者の方を敬う気持ちや思いやる気持ちを育成することができた。

また、高齢者の方と一緒に活動することで、挨拶をしっかりとすることや相手の話を聞くなどの基本的な人との関わり方についても意識が高くなってきている。

埼玉県学力学習状況調査における質問紙調査において、「あいさつ」「返事」「言葉遣い」などの項目に対して、肯定的に回答している児童の割合は、4年生から6年生まで県の平均を上回る結果となっている。

(2) 課題

今後も、教育活動の中で地域の先輩（高齢者）との関りを意図的・計画的に取り入れ、その活動を通して、高齢者の方を敬う気持ちや思いやる気持ちを育成していきたい。それは、本校の教育目標の一つである「思いやりのある子」の実現にもつながる活動であると考えている。